



令和2年(2020年)7月21日

第81号

発行 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会

〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47

TEL 0798(33)7713

FAX 0798(33)7743



「今だから育成会ができること」

一般社団法人西宮市手をつなぐ育成会

会長 本田 洋子



この度、西宮市手をつなぐ育成会会長の職を引き継ぐことになりました。長い歴史ある育成会の名を背負うには、あまりにも荷が重く、身が引き締まる思いです。昨年度から兵庫県手をつなぐ育成会副理事長を務めておられる近藤前会長はじめ諸先輩方にご助言をいただきながら、少しでも会の発展に寄与できますよう励んでまいります。

今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催で、日本中が歓喜に満ちた一年になるはずでした。新型コロナウイルス感染症のニュースが連日流れ、世界的な危機を迎えるなど、誰が想像できたでしょう。緊急事態宣言による長い自粛生活で、環境の変化が苦手な知的障害のある人とその家族はすっかり疲弊してしまいました。緊急事態宣言は解除されましたが、感染の不安が解消された訳ではありません。その中で、私たちが直面している大きな心配事、それは「もし知的障害のある本人やその人を支える家族が新型コロナウイルスに感染したらどうなるのか」この一点に尽きるのではと思います。その対策が急がれます。

5月には全国手をつなぐ育成会連合会より「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望」が国の関係省庁に提出されました。皆さんに抱える不安が少しでも解消されるよう、全国組織である育成会が各地区の皆さんからの声を集め、自治体や国に働きかけていく、それが今、育成会に求められる役割だと思います。私たち西宮市手をつなぐ育成会も力を尽くしてまいります。

コロナの影響でいろいろな催しの中止が発表されています。当会におきましても、年3回開催してまいりました「オープンセミナー」と3年ぶりの開催を予定しておりました「第8回はばたくアート展」を残念ながら中止とさせていただきます。会員向けの事業も3密を避ける新しい生活様式では、今まで通りの開催は難しくなるかも知れません。いろいろなアイデアを出し合って、今、できることを検討してまいります。

コロナ禍の中、総会が少人数の出席者と書面による異例の開催形式になるなど、戸惑いながら新体制がスタートしました。今だからこそ、これまで以上に会員同士のつながりが大切だと感じています。会員の皆様はじめ関係各所の皆様には、今後ともお力添え賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、感染防止対策に力を注ぎ、障害のある人の支援に携わっていただいております皆様に心より御礼申し上げますとともに、皆様のご健康をお祈り申し上げます。



育成会フォーラム 2019

みんなですすめる「安心」のまちづくり part3

日 時：2020年2月4日(火) 13時～16時

会 場：西宮市立勤労会館 4階 第8会議室

参加者：92名（会員42名、一般45名、登壇者5名）

講 師：山本雅章氏（東京都調布市 福祉健康部 部長）

講演テーマ「地域自立支援協議会を活用した地域生活支援拠点の整備
～市民と行政の協働の視点から～」

2017年、2018年では又村あおい氏をお迎えして西宮市の地域生活支援拠点の面的整備について考え、それぞれの立場の方々と積み上げていくことが大事である事を参加者のみなさんと共有することができました。

今年度は、昨年又村氏から地域自立支援協議会が有効に機能している事例としてご紹介していただいた調布市より山本氏をお招きしてご講演いただきました。

調布市では1968年に親の会（様々な障害を持つ子どもの親たちの会）が療育の場を作るべく立ち上がり、その後も行政と親の会が相談協議を重ね、必要なものを作っていました。2006年には親の会、作業所等連絡会など、協働して議論していく場として自立支援協議会を立ち上げ、その中で相談支援の基盤整備をし、課題について議論を重ね、施策に結びつけ、必要な整備をしていった結果、地域生活支援拠点が出来上がっていきました。



後半は5名の方々にご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。



近藤真由美

中村喜弘

山本雅章

松本 寛

角野太一

山本雅章 氏（調布市 福祉健康部 部長）

松本 寛 氏（西宮市 健康福祉局 福祉部 部長）

角野太一 氏（西宮市地域自立支援協議会 会長）

近藤真由美（西宮市手をつなぐ育成会 会長）

★パネラー

★コーディネーター 中村喜弘 氏（社会福祉法人一羊会 相談支援事業課こんぱす 課長）

山本氏のお話を受けて西宮市における現在の取り組みや問題点を登壇者のそれぞれの立場からお話を伺いました。

官民協同で拠点の整備を考えていくという点では、調布市と同様、西宮市でもすでに行っています。課題や完成図をみんなで話し合いながら進めることで、西宮らしい整備につながるのではないか、そのためには、自立支援協議会をもっと有効に活用するべきなどの意見が交わされました。

今後、課題解決に向けて行政と方向性を共有し進んで行くことを期待しています。また育成会として発信し続ける事の大切さを感じました。

育成会フォーラム 2019 を終えて…

2年前、西宮市が、障害のある人やその家族を含め、誰もが安心して住み続けられる町になることを願い「育成会フォーラム」を開催しました。障害があっても地域の中で安心して暮らしていくための相談支援体制や緊急時対応の整備を中心に、色々な立場の方にご登壇いただき、それぞれ役割分担ができるかという発信をしました。私たちの困り感や先の不安、自分たちだけではできないことをみんなで考えてほしい…という思いからでした。

西宮らしい整備につながる課題を抽出し、不足しているものや、本当に必要なもの、その優先順位をみんなで話し合い、完成図を共有することが大事であるという又村あおいさんのご助言をいただきました。

昨年は、「ホンマに、進んでるの?」「完成図はどうなってるん?」「私たち、実感ありませんけど~」みたいな、強気な第2回目を開催しました。そして、ようやくみやっこ会議（自立支援協議会）の中に「地域生活支援拠点検討委員会」が設置され、構成メンバーの中に育成会枠も作っていただきました。

今年も同じテーマでしつこく3回目のフォーラムを開催。毎回袋叩き覚悟でご登壇くださった行政と自立支援協議会の皆様には心からお礼を申し上げます。失礼なことをたくさん申し上げましたが、親だけでなく息子たちを囲む周りの人たちと一緒に考える場が出来たのは大変嬉しいことでした。

今、思いもかけないコロナ禍が世界中を襲い誰もが厳しい状況になっています。Withコロナの社会、私たちにとって何が正解なのかはわかりません。障害のある人や家族の生活を守るために、今こそ西宮市の「本人中心支援計画」を文字通り実践すべき場面かと思います。

彼らの生活を支えてくれる人たちも、育成会も、世代交代し若い人たちに今後を託すことになりますが、このつながりが途切れることなく、ますます強固なものとなることを願っています。感謝と期待を込めて。

近藤 真由美

2019年度オープンセミナー

『ともに育ち、ともに生きる』

日々の生活の中で起こる子どもとの小さなトラブル、発達やコミュニケーションにとまどい悩む皆さんへの情報やヒントの提供の場として、会員だけでなく一般の方も多数ご参加いただいています。

第1回 「障害のある人の意思決定支援について」

日 時 2019年9月12日(木) 西宮市総合福祉センター

参 加 者 83名 (会員34名 一般47名)

講 師 武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科

地域福祉研究室 教授 松端 克文 氏



障害のある人の意思決定支援についてお話しいただき、本人の意思や自己決定を尊重するための支援のあり方について考える機会をもちました。本人の意思や希望であっても社会的に認められにくいこともありますし、そのことが本人にとって有益でないと思われる場合もあります。また、ことばで意思確認できない人の自己決定はどうすれば良いのかということも大きな問題です。その為、意思決定支援を行う際には、自己決定を本人の能力の問題ではなく「関係」の概念として捉え直すことが大切だとのことです。支援する立場の人が「その人を大切に想う」から本人の意思を尊重するのであって、だからこそ賛同できない場合があるのです。それだけに意思決定支援においては「その人にとってより良い状態（最善の利益）は何か」を考えることが大切です。

支援者は、その人の幸せを実現していくという大きな目的を持ち、関係者が話し合い、本人が納得できるようしっかりと寄り添いながら一緒に考えることが必要です。

コミュニケーションが困難だという場合、それは伝達する方、つまり本人だけの問題ではなく、それを受け止める側、すなわち支援者の問題でもあります。ことばのあるなしにかかわらず、実は私たちは他者と接する場合、常にコミュニケーションをとっていて、ことばがある場合でも必ずしもそのままの意味でないこともあるので、本人のことをどのように「理解」し、その言動の意味を周囲の人たちが汲み取れるかで問題行動なども減ってくるということを強調されました。

第2回 「学校が‘育ちの場’になるために心がけたいこと」

日 時 2019年11月25日(月) 西宮市総合福祉センター

参 加 者 48名 (会員21名 一般27名)

講 師 公認心理師 臨床心理士 小林 史乃 氏



長年スクールカウンセラーをされてきた経験から事前にお渡ししていた質問に答える形で「学校とより良いコミュニケーションをとるには」「子どもの発達段階においてどのような対応をすれば良いか」等を具体的な事例を紹介しながらお話しいただきました。

スクールカウンセラーとは、「学校で働く心理士」です。生徒だけでなく、保護者や教員からの相談も受けて下さる心強い存在です。県下では、中学校は全校、小学校では3~4割程度配置されているそうです。

学校生活において先生と対立せずに協力関係を目指すためにはコミュニケーションを上手くとることが必要です。担任に子どもの状態を理解してほしいという事例の紹介では、ワークショップも交えて話し方のこつも教えていただきました。

発達段階の中でも、思春期などの心身共に不安定な時期を支えるためには子どもとの接し方を見直し、子どもの話すことに共感する、子どものしてくれることに感謝しことばで伝える、できそうなことを増やし取り組んでいくことなどが大切です。

最後に社会に出ていくためには「人を怖がらず人から愛される人」に育てることだとお話をされました。

第3回 「本人の思いを伝える自発的コミュニケーション支援」

日 時 2019年12月12日(木) 西宮市総合福祉センター

参加者 58名(会員26名 一般32名)

講 師 NPO法人 発達障害サポートセンターピュア

理事長 檜尾 めぐみ 氏



発達障害のある方が落ち着いて安心した生活を送るために、自発的コミュニケーションが大切であり、その取り組みの一つとして、PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)を使用した支援の具体例を幼児期から大人まで各年代ごとにビデオで紹介していただきました。ビデオでは自分の要求や意思を絵カードを使って自ら選択し伝えられるようになっていく様子がよくわかりました。

その中の一つに、成人男性(43歳)の母親が入退院を繰り返し亡くなられたとき、葬儀のスケジュールを絵カードで提示した結果、混乱することなく参列でき、母親との最期のお別れができたエピソードがありました。

「親亡き後、見通しを理解できる手段、自分の思いを自発的に伝えることができる手段を持たせることが、障害のある子供に残す最大の財産となる」このように力説され、見落としがちな大切な視点だと考えさせられました。

最後に、ストレスフルなライフステージの移行期でも、特性に沿ったコミュニケーション支援を行うことで、本人のストレスが軽減し、安定した生活を送ることができる。さらにコミュニケーションスキルの向上は、生活の質を高め人生を豊かにすると締めくくられました。

✿学齢期部 活動報告✿

学齢期部懇親会

「みんなで集まってお話ししましょう会」

美味しい昼食をいただきながら子どもの様子や
福祉サービスの情報、進路について、育成会の活動など幅広い話題で和気あいあいと楽しい雰囲気の中話が弾みました。



余暇活動

クリスマス会

2019年12月8日(日)
参加者95名

第2回目の余暇活動はクリスマス会を開催しました。

育成会でクリスマス会を開催するのは久しぶりですが当日は大勢の参加者で会場はいっぱいでした。

「お兄さんと歌おう」では
うたのお兄さんたちと一緒に
みんなで楽しくクリスマスソングを
歌いました。

その後は優しいフルートの音色とキーボードの
演奏をみんなで楽しみました。

最後はbingoゲームで大いに盛り上がり
クリスマス会を無事終えることができました!

地区別サロン活動

日ごろ子どもの所属の中でのつながりはあるものの、近くに住まいする会員同士がつながる機会はありません。ご近所の会員さん同士が顔の見える関係であれば、災害発生時の安否確認や助け合い、地域の情報交換等が容易になります。そんな機会が増えるように願って、成人部・学齢期部合同の地区別サロンを市内中国料理店で開催しました。

6つの大まかな地区割にはなりましたが、おいしこれをいただきながら、所属や年代を超えて楽しくおしゃべりして親睦を深めました。

日 時：2020年2月21日(金)
参加者：32名



成人部セミナー

テーマ：『親なき後の準備について～必要に応じた財産の伝承と管理方法～』

日 時：2020年1月20日(月) 参加者：66名

親なき後に備えることは、知的に障害のある人の家族にとって、最大かつ永遠とも思えるほどに大きな命題です。どこでだれと住むのか、日中活動はどうするのか、夜間や休日は誰が支援してくれるのか、病気や加齢で日常生活の質を保てなくなったらどうするのか、お金はいくらあれば生活していくのか、お金の管理は誰に頼めばいいのか、きょうだいにはなるべく負担をかけたくない…考え出すときりがないほどです。



福島 健太氏

そこでSIN法律労務事務所の弁護士 福島健太氏をお招きして、どのように備えるべきなのかをご講演いただきました。

親なき後に生じる問題を ①本人に代わって親がしていたことをどうするか（生活全般の助けや健康・お金の管理など）②親が亡くなったことで新たに発生する問題（相続・財産管理など）の2つに分けてのお話は、具体的で大変わかりやすく、みな食い入るように聞かせていただきました。

「親なき後の不安」は本人の不安ではなく親の不安です。あらかじめどのようなことが起きるか想定し、それに合わせた事前の対応をしていく必要がありますが、信頼できる支援者につながつていれば何とかなるというお話に、少し安堵した人も多かったのではないでしょうか。

大事なのは「本人の意向」に沿った生活ができるようにすることです。意思の表出が難しい人の場合もていねいに汲み取って書面等で残しておき、必要に応じて更新していく。そうすれば支援のバトンを渡す相手にも間違いなく伝えられます。

新役員紹介

会長



本田洋子

副会長



泉 明子



梅谷正子



山根佐代子

理事



西 真弓



波來谷多恵子



木野英子

事務局



高士文緒



加治宏美



丸尾恵子



山口朱美



川条正美



室田英子



酒井章乃

外部理事

森 知子

市原 博

塙谷 健介

監事

音川 礼子

近藤 真由美

退任理事・監事

古川 勝

栗林 和徳

市原 博

玉田 淳

退任される皆様、ありがとうございました。
新理事・監事の皆様、よろしくお願ひいたします。

退任理事 近藤真由美・宮脇葉子・岡直美・井手津弥子・水岡寿子

中谷美津子さんは任期途中で逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

♥ わたしたち『西宮啓発隊 輪・和・WA』活動中 ♥

2019年度後半は昨年に引き続き障害福祉課からのご依頼で西宮市新入職員研修会で擬似体験ワークを行った他、地区懇談会にも出動しました。

11月20日 地区懇談会（芦原地区）

1月29日 地区懇談会（広田地区）

2月14日 市新入職員研修会

2月18日 地区懇談会（鳴尾東地区）



市新入職員研修会

2019年度 ご寄付（敬称略・順不同）2020年3月末現在

社会福祉法人一羊会 西宮福祉ボランティア「グループ雑草」 税理士法人丸岡＆パートナーズ

佐々木康晴 栗林和徳 多田英子

2019年度賛助会員（敬称略・順不同）2020年3月末現在

西宮福祉ボランティア「グループ雑草」	佐々木康晴	久米利津子	青山恵里	野口裕				
平井陽子	村内光一	田中まどか	仲塚千夏	中村喜弘	西井明子	福原隆裕	久保廣高	
増田亜仁	今井広宣	中田祥貴	玉村悠南	堀江史子	四方勝	吉見京樹	谷田松子	
松枝千尋	谷口雄大	栗原裕実	中村行宏	細見啓	三木さおり	岡田朱加	花澤陽子	
門脇秀弥	大川裕紀	山本輝	秋山健一	古川勝	塙谷健介	三浦昇	牧原寛之	北川泰寿
大前繁雄	大前はるよ	井手邦子	森知子	三原昭博	柿坂浩史	平見有美	柴田圭一	
岩脇邦子	橋実千代	大西勝代						

ご贊助のお願い

当会は、知的障害児・者がその人らしく生きていくための一助になることを願って、様々な活動をしています。ぜひ、賛助会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。また、ご協力していただける方があられましたらご紹介下さい。

※賛助会員の方には当会主催のオープンセミナー等に無料で参加いただけます。

※皆さまからの賛助会費は啓発事業の一部に充てさせて頂いてあります。

・年会費 : 1□ 2,000円

・口座番号 : 00940-9-19101 (ゆうちょ)

・口座名義 : 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会

編集後記 新型コロナウイルス感染防止の為、育成会活動ができなくなるという初めての事態を経て2ヶ月遅れで第81号をお届けすることができました。今号から「手に手を」の題字が変わりました。皆様から募集した題字のアイデアを基にアート展でお世話になっていました行永亜矢先生にデザインしていただき、とても可愛い題字になりました。応募して下さった皆様ありがとうございました。